

加賀百万石の経済を支えた海の豪商



銭屋五兵衛

安永2年（1773年）11月25日、加賀国宮腰（現在の金石町）に生まれ、幼名を茂助といました。翁より六代前の吉右衛門の時より金銭両替商を営むようになり、屋号を銭屋とよんでいました。17歳で家督を継いだ翁は質屋と醤油業、その後新たに古着、呉服商なども営んでいます。海運業は39歳の時、質流れとなった120石の古船を修理して米を運んだのが最初でその後、54歳から20年あまりで、全国に30数店にも及び支店を持つ「海の百万石」と呼ばれる豪商となりました。また、海運業の他、材木、生糸、海産物、米穀の問屋も兼ね、保有した船舶の数は大小二百隻余といわれています。加賀藩からは銀仲棟取（ぎんずわいとんどり）、問屋職、諸算用聞上役（しょさんようききあげやく）などの諸役をおおせつかり藩の金融経済の大切な仕事につくし、たびたび御用金の調達もいたしました。

御手船を建造し、加賀藩御手船裁許を仰せつかり、苗字帯刀まで許され、まさに帆に風のはらむ船の如く、翁の活躍は鎖国令下の時代だけに目のさめるものがあったといえましょう。

銭屋五兵衛

翁の外国貿易説では、オーストラリア南方のタスマニアやアメリカ合衆国まで渡ったといわれています。加賀藩は最初の頃、銭五の海外貿易を黙認し、財政建て直しを計っていました。しかし加賀藩は翁の目ざましい活躍が幕府に知れることを恐れ、このまま翁を放置しておけなくなったのです。

そのころ、翁は周囲25.5キロ、面積2576ヘクタールの河北潟を20年計画で干拓し、美田にしようという計画をしていました。しかし、嘉永4年（1851年）から始めた工事は難行し、潟に死魚が出たり、それを食した漁民が中毒死する河北潟事件が起きたのです。嘉永5年（1852年）に銭屋は毒を投入した疑いで一族検挙され、翁は同年11月80才で牢死しました。

かつての一大海商も時の権力には勝てず、身に覚えのない罪に苦しんだことは銭五のなした事業が偉大であっただけに今日の河北潟干拓完成とも思い合わせて感慨深いものがあります。

翁は風雅の道にも親しみ亀巢と号して詩文俳句も能くしました。

今や翁の名声は年を追って高まり、その偉業は後世に永く語り伝えられるであります。

豪商 銭屋の本宅を移築、再現。

銭屋五兵衛の生涯をドラマチックに体験。

幕末の日本海を舞台に劇的に駆け抜けた海の豪商、銭屋五兵衛の生い立ちから全盛期を経て晩年に至までの波乱に満ちた生涯を、追体験できます。

銭屋の家系と五兵衛生い立ちの背景、39歳の五兵衛が古船で商いを始めた頃から、弘化2年（1845年）に1,500石積御手船、常豊丸を造り目覚ましい活躍で豪商銭五へ発展してゆく商売の方法。隆盛をきわめ、やがて晩年の河北潟事件までの流れを中心に銭五が生きた金石の歴史文化をおり交えて、わかりやすく映像や資料、模型などと共に紹介しています。



銭屋商訓三ヶ条

- 一、世人の信を受くべし
- 二、機を見るに敏かるべし
- 三、果敢勇決なるべし



北前船体験コーナー 弘化2年（1845年）に造られた1,500石積御手船、常豊丸の模型（実物の1/4サイズ）で当時の航海を体験できるコーナー。



銭五の館 現存した銭屋本宅の一部と三階建て蔵を移築して、当時の住居を再現した「銭五の館」は、海の豪商と呼ばれた五兵衛をはじめ銭屋一族ゆかりの品々を展示しています。



入館のご案内



銭五の館

〒920-0351 石川県金沢市普正寺町字85-1
TEL.076-267-2333



石川県銭屋五兵衛記念館

〒920-0336 石川県金沢市金石本町口55
TEL.076-267-7744 FAX.076-267-7764
URL <http://www.zenigo.jp/>



- 開館時間：午前9時～午後5時（入館は4時30分まで）
- 休館日：12月1日～4月末の毎週火曜日（祝日の場合は翌日）
5月1日～11月末は無休
年末年始（12月29～1月3日）

- 入場料：大人500円（団体400円）
小中高生350円（団体300円）団体は20人以上とします。
- 交通案内：JR金沢駅から車で15分／北陸鉄道バス金石・大野行、西警察署（銭屋五兵衛記念館）前下車、徒歩5分